

第2回WGでの主なご意見

第2回 分野横断的技術政策WGにおける主な意見等

(須崎委員による話題提供に関して)

- 3次元データの流通は、設計及び施工段階でモデルの作成目的が異なるのが要因であり、設計と施工の役割分担の見直し、ソフトウェアの機能改善、更には、既存の図面等からAIを活用して3次元データを生成する手法の導入も必要。
- 3次元データの活用を前提にすることで、検査、納品、支払い等を含め業務プロセスそのものを見直す必要がある。
- 現在も取組は進んでいるが更に利便性の向上を図るために、モデリングソフト間の互換性、標準化やルールの策定等についても、市場の競争性も踏まえつつ、検討することが必要。
- データ流通にあたり、各段階で必要以上のデータを間引くなど容量を減らし適正にすることが必要。
- 現場の最新の施工状況を正確に伝えることが現場の管理者の役目であり、BIM/CIMはそれを実現する重要なツールであり、BIM/CIMの普及状況を見定める目安となる。

((株)クボタへのヒアリングに関して)

- スマート農業のデータ基盤に関して、農水省が整備したWAGRIにより標準的に必要となる基礎的な情報が格納されており、会員なら誰でも利用可能で効率化されている。
- クボタが整備したプラットフォームは、圃場情報、土壌、生育、気象、収量等のデータを重ね合わせることができ、アップデートし、データを蓄積していくことができる。
- このプラットフォームでは、例えば、過去の実績を踏まえ、必要な施肥量を試算すること等も可能である。またスタートアップ企業や大学などとの共同開発を通じた機能追加・機能向上により、さらに高度な営農計画策定支援、ひいては生産性向上への貢献を目指している。
- 会計システム等、サードパーティのアプリケーション、サービスとの積極的な連携を推進している。
- API提供によってデータをオープン化する等、サードパーティとの連携を容易にするためのデータパイプライン整備が進んでいる。